

# 考人



## 図書館だより愛称

### 「考人」について

図書部

皆さんは玉名高校前庭池東側に「考える人」像があるのを知っていますか？ ぜひ実物を見てみてください。

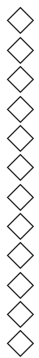
本校の『図書館だより』の愛称は「考人」です。この愛称は、右記のロダンの彫刻「考える人」にちなみ、平成二十二年に決定しました。玉名高校の知力の象徴・拠点としての図書館のイメージと、彫刻が学校にできたいきさつが由来となります。

ロダンの「考える人」像が完成したのは一九五八年のこと。今から六十一年前です。「玉名高校百年史 下」一七一ページに次のように記載されています。



ロダンの「考える人」像が前庭池の東側に完成し除幕式がおこなわれたのは昭和三十三年二月八日のことであった。昭和三十三年当時三年生であった宗正和之君が不治の病のため他界し、御遺族から最後にお世話になった学校へ何か残し

たいという話があった。相談を受けた担任の春川先生は、御遺族の気持ちを汲んでいろいろと考えた末に、柳川在住の彫刻家富重正男氏（東京美術学校出身）に相談された。宗正君のお母さんの気持ちに感激され、学校を見てから考えてみようということで、数日後に来校の上校舎、前庭のすばらしさに心を惹かれた富重氏は、前庭の一角にロダンの「考える人」の像を立てた。どうかという案を示された。費用の点の問題になったが「御遺族の寄附で足りない分は、お母さんの気持ちにこたえるために私が奉仕します」という制作者の話であった。最初の職員会議では、卒業生が前庭に対していただいているイメージがこわれるのではないか、あまり目立たぬ所に置いてはどうか等種々の意見があったが、結局現在の場所に落ち着いた。できあがって周囲とマッチしない時は別の場所に移すという条件がつけられていたという。富重氏は「考える人」像の建立が決まると、京都の博物館にある本物のロダン像を数度にわたって見に行かれ制作の資料とされた。前庭池の東側に実物大の白色セメント造りのロダン像が完成し、全校生徒、職員、御遺族参列のもとに除幕式がおこなわれた。後に完成した金栗四三氏の走る銅像と池をはさんで好一对をなし、今では生徒達に知力と体力の大切さを考えさせる一つのよすがとなっている。



「考える人」はダンテが扉の前で岩に腰を下ろ

し、詩想にふけっっている姿です。もともとは「地獄の門」の一部であった像を独立した像として取り出して作品化してあります。拳を歯に当てて思索する姿は人類共通の普遍的な人間像を示しています。「考える人」像がある高校は他にあまりないでしょう。玉名高校生が思索する姿を象徴しているとも考えることができます。この彫刻にちなみ、図書館が玉名高校生の思索の礎になることを願っています。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「新米です。よろしくお願いします！」

〇十年前、皆さんと同じ制服を着て通っていた頃も、「考える人」は水辺で思索に耽っていた（夜中に、疲れて左右の手を入れ替えている、とか）。像の背後、今の職員駐車場の辺りにあった図書館は、古い施設の常で全体に薄暗く、高い窓から差し込む光を見上げては、深い海の底にいるような気がしていた……。のですが、ひよっとしたらそれは記憶違いで、ただ「知」の重みと自分の小ささを、全身で感じていただけたのかもかもしれません。

休校が延長となり残念ですが、新着図書も増え、昔よりはるかに明るい書架で、手に取ってもらおう心を待ちにしています。先日お知らせしたように、登校日には貸出・返却を受け付けます。昨日は、ブログに無料閲覧サイトも紹介しました。こんな時だからこそ、ぜひ、本との豊かな出会いを楽しんで下さい。